

# 群馬の県内総生産(GDP)速報

## (令和元年10-12月四半期)

### 1 県内総生産 (GDP) 速報の概要

県内総生産(GDP)の推計は各種統計調査の結果を基に行われるため、確報の公表は年度終了から2年後となる。四半期及び年度速報は、確報公表までの間、公表済みの確報値を統計的な手法を用いて延長することにより作成している。国が公表している「四半期別GDP速報」の群馬県版に相当し、最近の出来事が景気に及ぼした影響や、足下の経済の総合的な動向を把握することができる。

### 2 公表内容

項 目		実 数		経済成長率	
		令和元年 7-9月	令和元年 10-12月	令和元年 7-9月	令和元年 10-12月
県内総生産 (季節調整値)	名 目	21,590 億円	21,526 億円	0.5 %	▲ 0.3 %
	実 質	20,400	20,433	0.6	0.2

実質経済成長率（季節調整済前期比）は0.2%（年率0.7%）と3期連続の増加となった。

生産面では『農林水産業』が4.0%と2期ぶり、製造業の『化学』が25.9%と2期連続、『その他の製造業』が0.6%と5期ぶり、また、『建設業』が1.8%と2期連続の増加となった。一方、製造業の『食料品』が▲2.8%、『機械』が▲5.0%とそれぞれ3期ぶり、『卸売・小売業』が▲1.8%、『保健衛生・社会事業』が▲0.8%とそれぞれ5期ぶり、『その他のサービス』が▲0.9%と4期連続の減少となった。

支出面では『政府最終消費支出』が0.3%、『純移出等』が22.3%とそれぞれ3期連続、『公的固定資本形成』が1.7%と4期連続の増加となった。一方、『民間最終消費支出』が▲1.6%と5期ぶり、『民間住宅』が▲2.6%と3期連続、『民間企業設備』が▲2.0%と3期ぶりの減少となった。

多くの産業や民間消費・投資でマイナスが目立つ中、製造業の『化学』が大きく増加したことにより、県内総生産（実質）はプラスを維持した。

## 《参考事項》

### 【用語】

名目：その時点の価格に基づく数値

実質：名目から物価変動の影響を取り除いたもので、過去の時点と量的な比較をすることができる。

季節調整：季節要因（四季の変化や社会習慣等に起因するもの）を取り除いたもので、前期と比較することができる。

民間最終消費支出：県民による、食料や衣服・サービスなどの消費

政府最終消費支出：国や地方公共団体が提供する公共サービスに医療保険給付などを加えたもの

民間企業設備：企業が生産のために使用する機械設備や建物に対する支出

公的固定資本形成：国や地方公共団体が行う住宅・道路・橋などへの投資

民間住宅：民間の住宅の新築及び増改築に要した工事費

純移出等：財貨・サービスの移出－財貨・サービスの移入＋在庫品増加＋統計上の不突合

### 【利用にあたっての留意事項】

- ・ 回帰分析等の統計手法を用いて速報性を重視し作成・公表するもの。そのため、後に公表する確報と差異が生じることがある。
- ・ 推計にあたっては、過去の結果についても遡及して改訂するため、公表当時の数値と異なる場合がある。
- ・ 実質値を推計するための四半期デフレーターには連鎖方式を使用している。